

2025年度

I Tエンジニア科 講義計画集

— 第2学年 —

氏名

.....
船橋情報ビジネス専門学校

〒273-0005 船橋市本町7-12-16

電話: 047-425-1051
.....

前期					後期						
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 火	1 木 木4回	1 日	1 火 火11回	1 金	1 月	1 水 水3回	1 土	1 月 月10回	1 木 元旦	1 日	1 日
2 水	2 金 金4回	2 月 月8回	2 水 水12回	2 土	2 火	2 木 木4回	2 日	2 火 火10回	2 金	2 月 月16回 後期試験	2 月 27卒学内合説
3 木	3 土 憲法記念日	3 火 火7回	3 木 木12回	3 日	3 水 部活動合宿	3 金 金4回	3 月 文化の日	3 水 水11回	3 土	3 火 火15回	3 火
4 金	4 日 みどりの日	4 水 水8回	4 金 金13回 漢字検定①	4 月	4 木 部活動合宿	4 土	4 火 火6回	4 木 木12回	4 日	4 水 追試	4 水
5 土	5 月 こどもの日	5 木 木8回	5 土	5 火	5 金	5 日	5 水 水7回	5 金 金13回	5 月	5 木	5 木
6 日	6 火 振替休日	6 金 金9回	6 日 ジョブパス	6 水	6 土	6 月 月4回	6 木 木9回	6 土	6 火	6 金	6 金 卒業式
7 月 始業式	7 水 水4回	7 土 休館日	7 月 月13回	7 木	7 日	7 火 火3回	7 金 金9回 ひろえび船橋	7 日	7 水 新年の会	7 土	7 土
8 火	8 木 月曜振替4回	8 日	8 火 火12回	8 金	8 月	8 水 水4回	8 土	8 月 月11回	8 木 木14回	8 日	8 日
9 水 前期スタート 水1回	9 金 金5回 J検B検CBT一般	9 月 月9回	9 水 水13回	9 土	9 火 後期スタート 水1回	9 木 木5回	9 日	9 火 火11回	9 金 金14回	9 月	9 月
10 木 木1回	10 土 休館日	10 火 火8回	10 木 木13回	10 日	10 水	10 金 金5回	10 月 月7回	10 水 水12回	10 土	10 火	10 火
11 金 金1回	11 日	11 水 水9回	11 金 金14回	11 月 山の日	11 木 木1回	11 土	11 火 火7回	11 木 木13回	11 日	11 水 建国記念の日	11 水
12 土	12 月 月5回	12 木 木9回	12 土	12 火 受付業務停止	12 金 金1回	12 日 国家試験	12 水 水8回	12 金 27卒就職G	12 月 成人の日	12 木 卒業研究発表会	12 木
13 日	13 火 火4回	13 金 金10回 駅前C	13 日	13 水	13 土	13 月 スポーツの日	13 木 木10回	13 土	13 火 火12回	13 金 卒業研究発表会	13 金 終業式
14 月 月1回	14 水 水5回	14 土	14 月 月14回	14 木	14 日	14 火 火4回	14 金 金10回	14 日	14 水 水13回	14 土	14 土
15 火 火1回	15 木 木5回	15 日 県民の日	15 火 火13回	15 金	15 月 敬老の日	15 水 水5回	15 土	15 月 27卒就職G	15 木 月曜振替12回	15 日	15 日
16 水 水2回	16 金 金6回	16 月 月10回	16 水 水14回	16 土	16 火 火1回	16 木 木6回	16 日	16 火 27卒就職個人面談	16 金 金15回 J検B検CBT一般	16 月 27卒就職G	16 月
17 木 木2回	17 土	17 火 火9回	17 木 木14回	17 日	17 水 月曜振替1回	17 金 金6回	17 月 月8回	17 水 27卒就職個人面談	17 土	17 火 27卒Web面接練習	17 火
18 金 金2回	18 日	18 水 水10回	18 金 金15回	18 月	18 木 木2回	18 土	18 火 火8回	18 木 27卒就職個人面談	18 日	18 水	18 水
19 土	19 月 月6回	19 木 木10回	19 土	19 火 成績発表	19 金 金2回	19 日 漢字検定②	19 水 水9回	19 金 27卒就職個人面談	19 月 月13回	19 木 成績発表	19 木
20 日 国家試験	20 火 火5回	20 金 金11回 J検B検CBT一般	20 日	20 水	20 土	20 月 月5回	20 木 木11回	20 土	20 火 火13回	20 金	20 金 春分の日
21 月 月2回	21 水 水6回	21 土	21 月 海の日	21 木	21 日	21 火 火5回	21 金 金11回	21 日	21 水 水14回	21 土	21 土
22 火 火2回	22 木 木6回	22 日	22 火 火14回	22 金	22 月 月2回	22 水 水6回	22 土 学校見学会	22 月 27卒就職個人面談	22 木 木15回	22 日	22 日
23 水 水3回	23 金 金7回	23 月 月11回	23 水 水15回	23 土	23 火 秋分の日	23 木 木7回	23 日 勤労感謝の日	23 火 27卒就職個人面談	23 金 金16回 漢字検定③	23 月 天皇誕生日	23 月
24 木 木3回	24 土	24 火 火10回	24 木 木15回	24 日	24 水 水2回	24 金 金7回	24 月 振替休日	24 水	24 土	24 火	24 火
25 金 金3回	25 日	25 水 水11回	25 金 金16回 J検B検CBT一般	25 月	25 木 木3回	25 土 若幸祭前日準備	25 火 火9回	25 木	25 日	25 水	25 水
26 土	26 月 月7回	26 木 木11回	26 土	26 火 再試発表	26 金 金3回	26 日 若幸祭当日	26 水 水10回	26 金	26 月 月14回	26 木	26 木 プレスクール
27 日	27 火 火6回	27 金 金12回	27 日	27 水	27 土	27 月 若幸祭振替休日	27 木 月曜振替9回	27 土	27 火 火14回	27 金 再試発表	27 金
28 月 月3回	28 水 水7回	28 土	28 月 月15回	28 木 J検B検CBT一般	28 日	28 火 若幸祭振替休日	28 金 金12回	28 日 受付業務停止	28 水 水15回	28 土	28 土
29 火 昭和の日	29 木 木7回	29 日	29 火 火15回	29 金	29 月 月3回	29 水 月曜振替6回	29 土	29 木 木16回	29 木	29 日	29 日
30 水 火曜振替3回	30 金 金8回	30 月 月12回	30 水 水16回	30 土	30 火 火2回	30 木 木8回	30 日	30 火	30 金 後期試験 月曜振替15回	30 月	30 月
	31 土		31 木 追試	31 日		31 金 金8回		31 水		31 火	31 火
										※27卒IIT,CHISA合説	
										※年間講義回数	
										月 31回	
										火 30回	
										水 31回	
										木 31回	
										金 32回	

2学年

本校の教育方針	1
評価について／出欠席ルール	3
FJBネットID登録とメールアドレス	4
実習室・インターネット使用上のルール・マナー	4
個人情報保護に関する基本方針	5
教育目標と検定スケジュール	6
シスコネットワーキング演習 I	松脇 和樹	7
システム開発演習	倉持 友也	8
ネットワーク構築演習	松脇 和樹	9
Linuxサーバー構築演習	小林 信彦	10
オブジェクト指向プログラミング演習 I・II	小林 信彦	11
Web技術演習 I・II	須藤 健一郎	13
スマホアプリ作成演習	倉持 友也	15
検定対策応用 I・II	石神・平野	16
ソフトウェアテスト基礎	株式会社SHIFT	18
データベース構築演習	小林 信彦	19
就職講座A	田邊・遠藤	20
Office演習応用 I・II	平山 慶子	21
就職講座B I・II	石神・平野	23
やってみなはれ演習応用 I・II	石神・平野	25

本校の教育方針

船橋情報ビジネス専門学校
校長 鳥居 高之

教育理念「若者をハッピーに」

これが本校の教育理念です。しかし幸せの形は人によって違いますし、卒業式で「はいどうぞ」と手渡しできるものではありません。在学中だけハッピーならよい訳でもありません。その後こそ重要です。従って私たち教職員の使命とは、学生のみなさんが職業人・社会人として豊かな人生を送るために、その土台作りのお手伝いをするという事になります。あくまでも主役は学生本人です。また社会に出てハッピーになる最低条件としては、大人として自立していなければなりません。その自立に欠かせないのが自律です。自律とは自分と闘うということです。ただ欲望や本能のままに行動するなら動物と同じです。すなわち、「自律 → 自立 → ハッピー」という順番です。私達もみなさんのお手伝いに全力を尽くしますが、自立した大人になる独力を忘れないでください。

勉強は教わるものではない

初年度のみ先生方は手取り足取り親切に教えてくれます。高校までに自分なりの勉強方法が身に付いていない人もいるからです。しかし2年目からは最後まで教えません。「まずは自分で考えてみなさい」と指導します。なぜでしょうか。将来みなさんが就職する会社に、そんな面倒見のよい上司や先輩がいるのでしょうか。みな仕事を抱えています。社会に出れば自分で勉強するのが当たり前です。質問・相談もできますが、自分で調べて考えるのが大原則です。その姿勢を在学中に身に付けてください。2年生になって先生の態度が変わるのはそのためです。急に厳しくなったと勘違いする学生がいますが、みなさんの真の成長を望んでいるのだということに気付いて欲しいです。

またスピード制限もしていません。もし授業の内容を既に理解していると感じる人は申し出てください。指導教員がそう判断すれば別メニューを設定します。クラス全体に歩調を合わせる必要はありません。どんどん前に進んでください！

人間教育の重視

人と接するのが苦手だからコンピュータの仕事に就きたいという学生がいます。大きな勘違いです。コンピュータの向こうには生身の人間がいます。どんなビジネスでも主役は人です。技術や資格ではなく人が仕事をするのです。そして人は一人では生きて行けない生き物です。仕事にせよ日常生活にせよ、常に他者との係わりの中で生きています。本校は単なる就職予備校ではないのです。人間教育を技術教育以上に重視しています。特に次の2つを心がけて欲しいです。

元気に明るく挨拶（あいさつ）

明るい人はみんなに好かれます。明るさの第一歩は、自分から元気に挨拶することです。そのような新入社員は職場でも愛されます。学校の先生方や来校されるお客様に練習台になっていただき、どんどん自分から挨拶しましょう。

3つの守り

本校がとても大切にしている3つの守りとは、「時間を守る、約束を守る、ルールを守る」です。単純ですが、当たり前のことを当たり前にやるのは実は大変なことです。自律できない人は自分と闘えません。つまり自立もできません。

「ルールを守る」に関しては考えて欲しいことがあります。学校生活だけでなく今後の生き方にも係わることです。ルールや法律を守るのは、叱られない罰せられないためでしょうか。世の中を見渡すと、法に触れなければいい、見つからなければいい、と考える者もいます。真の大人になり損ねた、自己中心のニセ大人です。みなさんには、「そんなことをしたら人として、大人として恥ずかしい」と自分を律して行動できる、良識ある職業人・社会人になって欲しいと願っています。以下校内のルールやマナーについて、少し補足しておきます。

通学

- (1) バイク・自動車通学全面禁止。
- (2) 自転車は学生課に登録し所定の駐輪場所を利用。

エレベーター

- (1) 学生はドアの注意書きに従うこと。下りは全面禁止。
- (2) 授業開始前および終了後の5分間は使用禁止。(教員優先)
- (3) 3号館は全面使用禁止。

禁煙

教職員、学生、成年、未成年者にかかわらず校内及び天沼公園・学校周辺は全面禁煙。

※路上はもちろん、駐車場やマンション共用部などの私有地での喫煙は地域の方に大変な迷惑をかけることとなります。

絶対にやめてください。(懲戒処分の対象となります)

※船橋駅前から本校までの路上喫煙は条例により禁止され過料(2,000円)の対象です

交通ルール

3号館前の大通りは横断絶対禁止。過去に死亡事故あり。横断歩道を使うこと。

重大なルール違反やマナー違反をした場合は、校長面接の上、停学や退学処分になることもありますので、学生の本分を守り勉学や学校生活に励んでください。なお本校では、学生が直接メールを校長宛に出すことができます。何か要望や相談があれば、いつでもメールしてください。 takatorii@mitsuhashi.ac.jp

以上

評価について

- (1) 評価とは成績証明書にS～Dで表現され記載される、その科目の最終的な成績のことを指す。
- (2) 評価は、合計点を用いて算出する。合計点とは、定期試験の素点に授業態度や出席状況、課題提出等の平常点を合計して算出したものである。

評価は以下の基準を用いる。(点または%)

S	90以上
A	80～89
B	50～79
C	40～49
D	39以下

- (3) 評価Dの者は、単位未修得者として処理される。
- (4) 評価Dの者には所定の手続きの後、再試験を実施する。ただし、再試験は特別の場合を除き、レポートに代替する。再試験に合格した場合その科目の評価はCとする。(特別な努力が認められたものは、B評価になることもある。)

GPA(Grade Point Average)

GPAとは、学生の成績の平均値を表したもので学期ごとにGPAを算出する。算出方法は以下の通り科目の評価(S～Dの5段階)に応じて、4.0～0.0の得点(GP)を設定し、科目ごとの得点(GP)に科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を履修科目の総単位数で割り、少数点第二位を四捨五入したものをGPAとする。

なお、GPAを算出するタイミングは各学期の成績発表時点とする。その時点で評価がDの科目のGPは、後日再試験に合格していても0.0となる。

$GPA = \frac{【GP \times 履修科目の単位数】の合計}{履修科目の総単位数}$

出欠席ルール

- (1) 遅刻3回で欠課1回、欠課6回(1年生はSHR分の遅刻1回を含む)で1日の欠席とみなし、次の条件で換算する
 - ・SHRの遅刻及び欠席で「遅刻1」※SHRは1年生のみ
 - ・授業開始15分までの入室で「遅刻1」
 - ・授業開始15～45分までの入室で「欠課1」
 - ・授業開始45～60分までの入室で「欠課1+遅刻1」
※90分授業の前半45分の欠課1、後半15分までの遅刻1という考え方でカウントする
 - ・授業開始60分以降の入室で「欠課2」
- (2) 年間55日の欠席で進級停止、退学勧告。
- (3) 交通機関の乱れによる遅刻の場合は「遅延証明をもらう」。ただしバスは適用外。

レベル	欠席日数	学校側からのアクション	備考
1	無断欠席	担任が自宅へ電話する	
2	累積10日欠席	自宅へ警告書を郵送する	警告書の郵送は累積10日になった時点で行う。
3	累積25日欠席	校長面接を行う	警告書の郵送は累積25日になった時点で行う。
4	累積40日欠席	校長面接において「退学警告」を行う	保護者同伴で行う。
5	累積50日欠席	校長面接において「最終警告」を行う	同上
6	累積55日欠席	①自宅へ退学勧告通知書を郵送する ②掲示板に名前を張り出す	退学を勧告する。

※「退学勧告」とは・・・1ヶ月以内に退学届けを提出すれば「自主退学」扱いとなります。以後は「強制退学処分」とします。

卒業認定

以下の条件に基づき学校長と教職員による卒業判定会議を経て学校長に認められた者について卒業を認定する

- (1) 履修した全ての科目において単位修得していること
- (2) 原則として各年度において年間55日以上欠席がないこと

FJBネットID登録とメールアドレス

1. ユーザID登録について

本校では、学生1人ひとりにユーザIDを発行しております。このIDでログインすると、学校内のネットワーク環境が利用できます。課題の保存、教材の受け渡し、メールでのコミュニケーションなどに活用して下さい。

2. メールアドレスについて

(1) 科によってメールアドレスが設定されています。

詳細は担任から説明があります。

(2) 「FJBインターネット&イントラネット」画面の「先生へのメール」をクリックして電子メールを活用して下さい。

(3) Webメールでの各個人に与えられている容量は50MBまでです。整理せずに企業からの大切なメールを受理できないケースがありました。 unnecessaryメールはこまめに消去してください。

3. 緊急連絡について

クラスの諸連絡、台風や大雪等の休校等の連絡はグループコミュニケーションツールを使用します。(スマートフォンでも使用可能)各自、常に最新の投稿を確認するようにしてください。投稿を確認していない場合、自己責任です。またツールを使用する環境がない場合は担任に申し出てください。

実習室・インターネット使用上のルール・マナー

1. 実習室の放課後開放について

放課後、午後6時まで実習室を開放します。開放時間中に清掃(清掃時間を入り口に掲示)が入ります。その際は一度退出をお願いします。気持ちよく使えるよう、ご協力ください。

2. 実習室に、飲食物は持ち込んではいけません

パソコンは精密な電子機械です。水、粘着質の糖分、細かなゴミ、小さな金属物などを嫌います。実習室では、飲食行為も持ち込みも、厳禁です。

3. 本校のパソコンに、ゲーム(その他ソフト)をインストールしてはいけません

雑誌の付録のCD-ROMを持ち込んだり、インターネットでダウンロードしたりして、ゲームなどのソフトを本校のパソコンにインストールしてはいけません。

4. USBなどの記憶媒体は必ずウイルスチェックをするようにして下さい

記憶媒体を本校で使用する場合は、監督の先生に申し出てウイルスチェックをしてもらって下さい。その後、許可します。

5. 実習ファイルを保存するための領域をIドライブに用意してあります

必要なファイルのみ保存し、常に整理を心がけてください。ゲームファイル、過度な容量のファイルの保存を禁止します。(卒業研究等、必要な場合を除く)

6. インターネットを利用して、画像、音楽などを不正使用してはいけません

画像・音楽データなどはすべて、著作権があります。さらに、人物の写真には肖像権、アイドルの写真にはパブリシティ権があります。個人的な利用の範囲を超えて、使用してはいけません。HPやブログに貼り付けることはこれらの権利の侵害で、犯罪行為です。

7. インターネットに、非常識な書き込みをしてはいけません

インターネットの世界は、限られた若者のギャグやチャレの場ではありません。善意ある人達の、世界的に開かれた場です。匿名性を利用した破廉恥な書き込みは、卑怯者の行為です。一見匿名ですが、アクセス記録は残りますから、必ず追跡されます。

以上の約束が守れない場合は、指導の対象となります。

また、悪質な場合は、停学・退学を含めた処置を検討します。

学校法人三橋学園 船橋情報ビジネス専門学校
個人情報保護に関する基本方針（プライバシーポリシー）

船橋情報ビジネス専門学校

船橋情報ビジネス専門学校は、教育機関としての社会的責任を果たすために、以下の個人情報保護方針（プライバシーポリシー）を定め、教職員およびその他の関係者に周知徹底し、これを実行します。

1. 個人情報の取り扱いについては、教育上または業務上必要な範囲内において利用目的をできるだけ特定した上で、権限を与えられた者のみに許可します。
2. 個人情報に対する不正アクセス、紛失、破壊、改ざんおよび漏えい等を防止するために、適切な安全対策を講じます。
3. 取得した個人情報は、以下の目的に利用します。
 - (1) 本校の授業、検定試験、行事等の通知・連絡・管理を行うため
 - (2) 就職指導、企業紹介、就職活動支援を行うため
 - (3) 入学相談および募集活動を行うため
 - (4) 入学選考試験業務を行うため
 - (5) 各種証明書等の発行業務を行うため
 - (6) 上記のほか、教育上必要と判断される業務や活動を行うため
4. 本校は以下のような場合において、必要とされる範囲内で個人情報を関係者または第三者に提供もしくは公開することがあります。
 - (1) 在学生の保護者に対し、本人の学業成績、出欠席状況、資格取得状況等の提供
 - (2) 在学生もしくは卒業生の出身校に対し、本人の出欠席状況、資格取得状況、就職状況等の提供
 - (3) 学内での定期試験合格者、資格取得者、就職内定者情報等の公開
 - (4) 職業紹介で応募を希望する求人先に対し、応募情報の提供
 - (5) 職業紹介で求職者に開示の許諾を得た業務提携先に対し、応募情報の提供
 - (6) 就職指導室における、在学生もしくは卒業生の就職先、就職活動記録等の公開
 - (7) 本校への入学希望者に対する、在学生もしくは卒業生の就職または就職内定先情報および、学校案内や本校ホームページに記載されている情報等の提供
 - (8) 上記のほか、本校の教育上もしくは業務上必要と判断される場合
5. 上記以外の利用目的で個人情報を収集する場合は、別途本人および保護者に通知します。
6. 以上のように、本校による関係者および第三者への個人情報の提供は、教育上もしくは業務上必要であると判断した上で行っておりますが、希望しない場合は所定の手続による請求をすることで停止できます。

個人情報の開示、訂正、利用停止の請求および取り扱いに対する問い合わせは下記までお願いします。

校長 鳥居 高之
047-425-1051
takatorii@mitsuhashi.ac.jp

ITエンジニア科	2年
----------	----

【前期】

科目	シスコネットワーキング演習 I	分類	専門科目、必修科目
担当	松脇 和樹		
テキスト (出版社)	本校のオリジナルテキスト Cisco CCNA 完全合格テキスト&問題集 200-301(翔泳社)		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	6
	20%	0%	0%	30%	10%	40%	100%		

1. 授業の概要

シスコ・ネットワーキングアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワーク技術者(もしくはネットワークインフラに詳しいシステムエンジニア)として必要とされる知識と技能を修得する。

2. 授業の目標(検定取得など)

シスコ技術者認定試験(CCNA)の合格、ネットワークエンジニアに求められる高度な技術知識の習得。

3. 注意点・要望

CCNA試験は、国家試験と異なり合格に必要な点数が高く深い理解が求められます。知識を曖昧なままにしないよう復習を行って下さい。夏期に試験対策講座を実施します。

4. 関連科目

ネットワーク構築演習

週	テーマ	内容
1	導入 ネットワークの基礎知識(1)	CCNA試験合格までのスケジュール 1年次の復習
2	ネットワークデバイスの管理 ルーティングの基礎	CDP、LLDP、Telnet、パスワードリカバリ、NTP スタティック・ダイナミックルーティング、アドミニストレーティブディスタンス
3	VLSMと経路集約 インターネット接続	VLSMと経路集約 DHCP、DHCPリレーエージェント
4	アクセスリスト NATとPAT	アクセスリスト NATとPAT
5	VLANとVLAN間ルーティング	VLAN、VTP、VLAN間ルーティング、レイヤ3スイッチ
6	STP ファーストホップ冗長化	STP HSRP、VRRP、GLBP
7	OSPF	OSPF
8	Etherchannel PoE	Etherchannel PoE
9	QoS IPv6	QoS IPv6
10	WANサービスとVPN クラウドサービス	WAN回線の種類、VPN クラウドサービス
11	ネットワーク設計モデル ワイヤレスLAN	Cisco3階層モデル、Cisco2階層モデル、無線LANの特徴、無線チャネル、WLC
12	セキュリティ ネットワークの自動化とSDN	利用者に向けたセキュリティ、様々な攻撃手法、マルウェア ステートフルインスペクション機能、AAA、SDN、ネットワークの自動化
13	CCNA試験対策(1)	CCNA対策用の問題演習
14	CCNA試験対策(2)	CCNA対策用の問題演習
15	CCNA試験対策(3)	CCNA対策用の問題演習
16	前期試験期間	効果測定

備考	-
----	---

科目	システム開発演習	分類	専門科目、必修科目
担当	倉持 友也		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	Monacaで学ぶはじめてのプログラミング～モバイルアプリ入門編～(アシアル株式会社)		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	6
	0%	0%	60%	0%	0%	40%	100%		

1. 授業の概要

システムエンジニア・プログラマの仕事に関する実務的な演習として、グループごとにシステム(スマホアプリ)の開発を行うことにより、システムの開発工程の実践と成果物のプレゼンテーション方法を学ぶ。

2. 授業の目標(検定取得など)

システム開発ではプログラミング能力やITスキル以上に、顧客視点、プレゼンテーション能力、設計能力、見やすい資料の作成、管理能力、チームワーク、問題解決力が重要であり、本授業を通してそれらを身に付けることを目標とする。

3. 注意点・要望

システムの完成だけに捉われず、社会人としてどういった行動を取るべきかを常に意識して取り組んで欲しい。具体的には、「チームに対して自分から発信する」「作業に優先度をつける」「問題発生時に速やかに報告する」などを意識すること。

4. 関連科目

スマホアプリ作成演習、Web技術演習Ⅰ・Ⅱ

週	テーマ	内容
1	企画・分析工程(1)	現状調査、課題の発見、システムの提案
2	企画・分析工程(2)	ターゲット層、開発コンセプトの設定、開発する商品(アプリ)の魅力を伝える
3	プロトタイプシステムの実装(1)	画面のプロトタイプを作成
4	プロトタイプシステムの実装(2)	設計書やプロトタイプ画面を元にアプリの動作を実装
5	プレゼンテーション	プロトタイプアプリを使い、企画案、画面・機能のプレゼンテーションを行う
6	設計工程(1)	画面・機能・動作の見直しを行い、システムのブラッシュアップを図る
7	設計工程(2)	画面遷移図・ファイル一覧などの設計書の作成および技術調査(1)
8	設計工程(3)	画面遷移図・ファイル一覧などの設計書の作成および技術調査(2)
9	中間報告	システム開発状況の中間報告のプレゼンテーションを行う
10	開発工程(1)	設計書を元にシステム開発を行う(1)
11	開発工程(2)	設計書を元にシステム開発を行う(2)
12	開発工程(3)	設計書を元にシステム開発を行う(3)
13	開発工程(4)	設計書を元にシステム開発を行う(4)
14	テスト工程	設計書を元にシステム開発を行う(5)
15	完成報告	システム完成報告プレゼンテーション
16	後期試験期間	-

備考

業務システム開発経験のある教員が、スマホアプリの企画から実装までの演習を行う。

科目	ネットワーク構築演習	分類	専門科目、必修科目
担当	松脇 和樹		
テキスト (出版社)	本校のオリジナルテキスト Cisco CCNA 完全合格テキスト&問題集 200-301		
参考資料	データ教材、プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	20%	0%	40%	0%	0%	40%	100%		

1. 授業の概要

Cisco社が提供しているシミュレータソフト(Packet Tracer)を利用し、L2、L3レベルでの簡単なネットワークの構築、およびトラブルシューティングを行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

CCNAのシミュレーション問題を想定し、資格試験に合格できるレベルのネットワーク構築、トラブルシューティングが行える技術習得を目指す。

3. 注意点・要望

エンジニアとしての素養をつける良いタイミングなので、まずは自分一人で「なぜ？」を繰り返しながら対応を進めること。シスコネットワーキング演習で学習したコマンドを沢山叩くことで、頭ではなく身体で覚えるように意識して欲しい。

4. 関連科目

シスコネットワーキング演習

週	テーマ	内容
1	ガイダンスとシミュレータソフトの紹介	シミュレータソフト(Packet Tracer)の利用方法等の説明
2	振り返り	IPアドレス計算に関する復習のため基礎テストを実施 基礎的な構築(デバイスの設置、ケーブル配線、疎通確認)
3	スイッチの利用	PortSecurityやパスワード設定 リモート接続時の注意点等
4	showコマンド	showコマンドからの読み取り、運用系コマンドについて(copy 等)
5	スタティックルート	スタティックルートを利用したNWの構築 設定確認コマンドについて
6	ダイナミックルート	ルーティングプロトコル(RIPv2)を利用したNWの構築 設定確認コマンドについて
7	デフォルトルート	デフォルトルート等を用いたNWの構築
8	アクセスリスト	アクセスリストの設定、確認
9	NAT	NATの設定、確認
10	DHCP	DHCPサーバ、クライアントの設定、確認
11	NTP	NTPサーバ、クライアントの設定、確認
12	VLAN	VLANを利用したネットワーク構築
13	IPv6	IPv6の設定、確認
14	WLC	WLCの設定、確認
15	CCNA対策	CCNA対策用の実習課題の実施(総合問題)
16	前期試験期間	効果測定

備考

-

科目	Linuxサーバー構築演習	分類	専門科目、必修科目
担当	小林 信彦		
テキスト (出版社)	Linux標準教科書ver3.0.4 (LPI-JAPAN)		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	10%	60%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要

Linux(GentOS)によるサーバの構築を行う。インストール、基本操作、セキュリティやシステム管理の基本について演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

Linuxの基本操作、システム管理の基本、設定を身につける。

3. 注意点・要望

授業内で進捗状況の確認とまとめ、小テストを行う。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	ガイダンスと環境の作成	授業の内容と進め方、課題の提出法などについて・Linuxの概要と導入
2	Linux学習環境のインストール	ディストリビューションとバージョンによる差異、実習用環境の構築
3	基本設定	基本的な設定と操作/sshを利用したリモートアクセス
4	コマンドの基本(1)	CUIによる基本的なコマンド操作(1)
5	コマンドの基本(2)	CUIによる基本的なコマンド操作(2)
6	コマンドの基本(3)	CUIによる基本的なコマンド操作(3)
7	コマンドの基本(4)	CUIによる基本的なコマンド操作(4)
8	viエディタ(1)	viエディタによるファイルの作成/編集(1)
9	viエディタ(2)	viエディタによるファイルの作成/編集(2)
10	管理者とユーザ管理(1)	ユーザの作成および管理(1)
11	管理者とユーザ管理(2)	ユーザの作成および管理(2)
12	システム管理とセキュリティ(1)	システムとアプリケーションの管理
13	システム管理とセキュリティ(2)	ネットワークの管理
14	システム管理とセキュリティ(3)	セキュリティの基本設定
15	後期試験期間	-

備考

-

科目	オブジェクト指向プログラミング演習 I	分類	専門科目、必修科目
担当	小林 信彦		
テキスト (出版社)	スッキリわかるJava入門 第4版(インプレス)		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要		
1年次より学習しているJavaを用い、オブジェクト指向を利用したプログラミングについて演習を行う。		
2. 授業の目標(検定取得など)		
繰り返し演習を行い、Javaの基礎とオブジェクト指向についての理解を深める。		
3. 注意点・要望		
演習は繰り返しと積み重ねで進行する。確実に身につくように積極的に取り組むこと。		
4. 関連科目		
オブジェクト指向プログラミング演習 II		
週	テーマ	内容
1	Java言語の概要と開発環境構築	Java言語の現況と、Eclipseの使い方の確認
2	Java言語の基本の確認(1)	変数とデータ型、式と演算子
3	Java言語の基本の確認(2)	キーボード入力、条件分岐
4	Java言語の基本の確認(3)	繰り返し処理、配列
5	Java言語の基本の確認(4)	メソッドの定義と呼び出し
6	Java言語の基本の確認(5)	エラーと例外処理
7	オブジェクト指向プログラミング(1)	オブジェクト指向について、クラスとインスタンス
8	オブジェクト指向プログラミング(2)	メソッドとフィールド
9	オブジェクト指向プログラミング(3)	コンストラクタとは
10	オブジェクト指向プログラミング(4)	継承、抽象クラスとインターフェース
11	オブジェクト指向プログラミング(5)	多態性とは、多態性のメリット
12	オブジェクト指向プログラミング(6)	カプセル化とは、アクセス制御、getterとsetter
13	オブジェクト指向プログラミング(7)	確認の課題を作成を行う
14	オブジェクト指向プログラミング(8)	確認の課題を作成を行う
15	まとめ	前期の内容のまとめと演習
16	前期試験期間	-

備考	-
----	---

科目	オブジェクト指向プログラミング演習Ⅱ	分類	専門科目、必修科目
担当	小林 信彦		
テキスト (出版社)	スッキリわかるJava入門 第4版(インプレス)		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要		
Javaを活用し、オブジェクト指向プログラミングについて演習を行う。		
2. 授業の目標(検定取得など)		
オブジェクト指向を活用したプログラミングについて理解を深め、データベース等との連携についても演習を行う。		
3. 注意点・要望		
演習は繰り返しと積み重ねで進行する。確実に身につくように積極的に取り組むこと。		
4. 関連科目		
オブジェクト指向プログラミング演習Ⅰ		
週	テーマ	内容
1	オブジェクト指向プログラミング(1)	前期の内容について確認を行う
2	オブジェクト指向プログラミング(2)	前期の内容について確認を行う
3	オブジェクト指向プログラミング(3)	ファイル操作について、テキストファイルの読み書き
4	オブジェクト指向プログラミング(4)	様々なファイル形式(CSV等)の活用
5	オブジェクト指向プログラミング(5)	データベースアクセス データベース環境の確認と基本操作
6	オブジェクト指向プログラミング(6)	データベースアクセス データベースの接続と切断
7	オブジェクト指向プログラミング(7)	データベースアクセス SQL文の送信
8	オブジェクト指向プログラミング(8)	データベースアクセス SQL文の送信
9	オブジェクト指向プログラミング(9)	データベースアクセス SQL文の送信
10	オブジェクト指向プログラミング(10)	データベースを利用したプログラム作成
11	オブジェクト指向プログラミング(11)	データベースを利用したプログラム作成
12	オブジェクト指向プログラミング(12)	データベースを利用したプログラム作成
13	オブジェクト指向プログラミング(13)	データベースを利用したプログラム作成
14	オブジェクト指向プログラミング(14)	確認の課題を作成を行う
15	後期試験期間	-

備考	-
----	---

科目	Web技術演習 I	分類	専門科目、必修科目
担当	須藤 健一郎		
テキスト (出版社)	初心者からちゃんとしたプロになる JavaScript基礎入門(インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	40%	20%	0%	40%	100%		

1. 授業の概要

一年次に学習したHTMLとCSSの基礎知識を確認しつつ、「コーディング技術」や「Webを売る知識」をより実践的に習得する。授業後半では、JavaScriptの範囲に入り、条件分岐の入口までを前期に実施していく。

2. 授業の目標(検定取得など)

Webの仕事的概念的に理解することで、顧客の概念をしっかりと持つことに注力する。技術要素として、パスの概念を全員が理解できるように努め、Web構築をし、JavaScriptを通じてプログラム知識を深める。

3. 注意点・要望

分からない部分は次回授業までに質問をし、解決しておくこと。
JavaScriptは1年次に学習したJava言語とは違うものなので、混同しないこと。

4. 関連科目

HTML演習、Web技術演習 II

週	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の進め方～VSCodeの設定～Webとは何か？
2	業務としてのWebについて(1) Web制作演習(1)	Webの仕事はどこから来るのか？ パスの概念徹底攻略～実践Web構築
3	業務としてのWebについて(2) Web制作演習(2)	顧客とエンドユーザーの概念 タグの基礎確認(1)～実践Web構築
4	業務としてのWebについて(3) Web制作演習(3)	顧客分析とヒアリング～Webサイトは何のために構築するのか？ タグの基礎確認(2)～実践Web構築
5	業務としてのWebについて(4) Web制作演習(4)	サイトのターゲット確立と目的&コンセプト タグの基礎確認(3)～実践Web構築
6	業務としてのWebについて(5) Web制作演習(5)	エンドユーザー想定に迫るペルソナ分析 タグの基礎確認(4)～実践Web構築
7	業務としてのWebについて(6) Web制作演習(6)	続・ペルソナ分析 レスポンシブデザイン(1)～実践Web構築
8	業務としてのWebについて(7) Web制作演習(7)	エンドユーザーのアクセスを予想する、カスタマージャーニー レスポンシブデザイン(2)～実践Web構築
9	業務としてのWebについて(8) Web制作演習(8)	ワイヤフレームとデザインキャンブ レスポンシブデザイン(3)～実践Web構築
10	業務としてのWebについて(9) Web制作演習(9)	コーディング技法 CSS実践編(1)～実践Web構築
11	業務としてのWebについて(10) Web制作演習(10)	テストと納品、顧客教育 CSS実践編(2)～実践Web構築
12	JavaScript編 Lesson1-1	ガイダンス～VSCodeの設定～JavaScriptとは何か？
13	JavaScript編 Lesson1-2	Consoleを利用して、変数を活用する
14	JavaScript編 Lesson1-3	フォルダ構造とパスの関係、データ転送量とサーバの関係、定数変数の違い VSCode活用方法、if文の基本
15	JavaScript編 Lesson1-4	論理演算 実践if文と条件式
16	前期試験期間	-

備考

-

科目	Web技術演習Ⅱ	分類	専門科目、必修科目
担当	須藤 健一郎		
テキスト (出版社)	初心者からちゃんとしたプロになる JavaScript基礎入門(インプレス)		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	20%	0%	30%	10%	0%	40%	100%		

1. 授業の概要

JavaScriptを通じて、プログラムの基礎をしっかりと学習するための授業。
基礎のみならず、具体的なWebサイトでの活用例も参照しつつ、JavaScriptの基本的な使いどころを理解していく。

2. 授業の目標(検定取得など)

プログラムの構造を理解する/ファイルとフォルダやパスの概念の再確認/ブラウザのドキュメント構造解釈への理解/
JavaScriptのオブジェクトについて知識を付ける/フレームワークに触れる。

3. 注意点・要望

後期試験はアップロードを含め、50分間でのプログラミング問題となる。
積み重ねが重要であるため、1回ごとの授業でわからない部分はしっかりと質問すること。

4. 関連科目

Web技術演習Ⅰ

週	テーマ	内容
1	JavaScript編 Lesson1-4	前期の復習
2	JavaScript編 Lesson1-5	実践if文と条件式2
3	JavaScript編 Lesson1-6	配列について
4	JavaScript編 Lesson1-7	配列実践
5	JavaScript編 Lesson1-8	配列のメソッド
6	JavaScript編 Lesson2-1	オブジェクト、インスタンス化、インスタンス
7	JavaScript編 Lesson2-2	タイマーを作ろう！
8	JavaScript編 Lesson2-3	連想配列～複雑なプログラムを作ってみよう！
9	JavaScript編 Lesson3-1	ToDoアプリ制作実習1
10	JavaScript編 Lesson3-2	ToDoアプリ制作実習2
11	JavaScript編 Lesson3-3	ToDoアプリ制作実習3
12	JavaScript編 Lesson4-1	フレームワークの基本編
13	JavaScript編 Lesson4-2	フレームワーク活用
14	JavaScript編 Lesson4-3	フレームワーク実践1
15	JavaScript編 Lesson4-4	フレームワーク実践2
16	後期試験期間	効果測定

備考

-

科目	スマホアプリ作成演習	分類	専門科目、必修科目
担当	倉持 友也		
テキスト (出版社)	Monacaで学ぶはじめてのプログラミング～モバイルアプリ入門編～(アシアル株式会社)		
参考資料	Web等		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	0%	60%	0%	0%	40%	100%		

1. 授業の概要		
スマホアプリ作成に必要となる基礎知識と関連技術を学ぶ。		
2. 授業の目標(検定取得など)		
スマホアプリ作成に必要となる広範に渡る知識と技術に触れ 後期システム開発演習に臨む基礎力を身に付ける。		
3. 注意点・要望		
HTML5,JavaScriptをベースとしたクロスプラットフォーム開発手法を用いる。		
4. 関連科目		
システム開発演習、Web技術演習 I・II		
週	テーマ	内容
1	導入	授業解説、環境説明、操作練習
2	Web制作の基礎	Webアプリとは、HTML・CSS・JavaScriptの役割
3	JavaScript入門	JavaScriptの基礎部分を理解する(変数・条件分岐・関数)
4	JavaScript基礎(1)	オブジェクト、イベントによるプロパティの動的書き換え
5	JavaScript基礎(2)	フォーム、演算子、配列、繰り返し
6	制作演習(1)	課題作成演習(1)
7	制作演習(2)	課題作成演習(2)
8	グラフィックス	画像・画面に関する基礎知識
9	データの記録と保持	データの記録場所と記録方法、クライアントとサーバー、ファイルとデータベース
10	ハードウェア機能の利用	位置情報取得、カメラ
11	制作演習(3)	課題作成演習(3)
12	制作演習(4)	課題作成演習(4)
13	スマホアプリ(1)	スマホアプリとは何か、様々なプラットフォームと開発フレームワーク
14	スマホアプリ(2)	デバイスとセキュリティ、開発環境、頒布形態と収益モデル
15	総括	振り返りとまとめ、課題提出
16	前期試験期間	-

備考	- 業務システム開発経験のある教員が、スマホアプリの企画から実装までの演習を行う。
----	---

科目	検定対策応用 I	分類	専門科目、必修科目
担当	石神 和也・平野 智也		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	20%	0%	40%	10%	30%	100%		

1. 授業の概要

各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

各自が定める検定の取得。

3. 注意点・要望

目標だけ定めて取り掛からないことは原則認めない。しっかりと自分に必要となる学習を進めること。

4. 関連科目

IT系科目全般

週	テーマ	内容
1	目標設定	各自が将来的に必要となる資格を決め、目標設定のためのレポートを作成する
2	面談(1) 検定に向けた学習(1)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(1) 各自が決めた検定に向けての学習(1)
3	面談(2) 検定に向けた学習(2)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(2) 各自が決めた検定に向けての学習(2)
4	面談(3) 検定に向けた学習(3)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(3) 各自が決めた検定に向けての学習(3)
5	面談(4) 検定に向けた学習(4)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(4) 各自が決めた検定に向けての学習(4)
6	面談(5) 検定に向けた学習(5)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(5) 各自が決めた検定に向けての学習(5)
7	面談(6) 検定に向けた学習(6)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(6) 各自が決めた検定に向けての学習(6)
8	面談(7) 検定に向けた学習(7)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(7) 各自が決めた検定に向けての学習(7)
9	面談(8) 検定に向けた学習(8)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(8) 各自が決めた検定に向けての学習(8)
10	面談(9) 検定に向けた学習(9)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(9) 各自が決めた検定に向けての学習(9)
11	面談(10) 検定に向けた学習(10)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(10) 各自が決めた検定に向けての学習(10)
12	面談(11) 検定に向けた学習(11)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(11) 各自が決めた検定に向けての学習(11)
13	面談(12) 検定に向けた学習(12)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(12) 各自が決めた検定に向けての学習(12)
14	面談(13) 検定に向けた学習(13)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(13) 各自が決めた検定に向けての学習(13)
15	効果測定	取り決めた目標と実態とのギャップの振り返り、レポート作成
16	前期試験期間	-

備考

-

科目	検定対策応用Ⅱ	分類	専門科目、必修科目
担当	石神 和也・平野 智也		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	4
	0%	20%	0%	40%	10%	30%	100%		

1. 授業の概要

各自資格取得に向けた目標設定を行い、それを達成するために演習を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

各自が定める検定の取得。

3. 注意点・要望

目標だけ定めて取り掛からないことは原則認めない。しっかりと自分に必要となる学習を進めること。

4. 関連科目

IT系科目全般

週	テーマ	内容
1	目標設定	各自が将来的に必要となる資格を決め、目標設定のためのレポートを作成する
2	面談(1) 検定に向けた学習(1)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(1) 各自が決めた検定に向けての学習(1)
3	面談(2) 検定に向けた学習(2)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(2) 各自が決めた検定に向けての学習(2)
4	面談(3) 検定に向けた学習(3)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(3) 各自が決めた検定に向けての学習(3)
5	面談(4) 検定に向けた学習(4)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(4) 各自が決めた検定に向けての学習(4)
6	面談(5) 検定に向けた学習(5)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(5) 各自が決めた検定に向けての学習(5)
7	面談(6) 検定に向けた学習(6)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(6) 各自が決めた検定に向けての学習(6)
8	面談(7) 検定に向けた学習(7)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(7) 各自が決めた検定に向けての学習(7)
9	面談(8) 検定に向けた学習(8)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(8) 各自が決めた検定に向けての学習(8)
10	面談(9) 検定に向けた学習(9)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(9) 各自が決めた検定に向けての学習(9)
11	面談(10) 検定に向けた学習(10)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(10) 各自が決めた検定に向けての学習(10)
12	面談(11) 検定に向けた学習(11)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(11) 各自が決めた検定に向けての学習(11)
13	面談(12) 検定に向けた学習(12)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(12) 各自が決めた検定に向けての学習(12)
14	面談(13) 検定に向けた学習(13)	必要に応じてレポート内容のレビューと面談を行う(13) 各自が決めた検定に向けての学習(13)
15	後期試験期間	-

備考

-

科目	ソフトウェアテスト基礎	分類	専門科目、必修科目
担当	株式会社SHIFT 越後 清志、鈴木 佑介、山中 治樹		
テキスト (出版社)	ソフトウェアの品質管理(株式会社SHIFT作成教材)		
参考資料	プリント教材(スライドデータ)		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	30%	0%	20%	100%		

1. 授業の概要

ソフトウェア品質に関する基礎知識、およびソフトウェアテスト設計に関する基本スキルを身に付ける。

2. 授業の目標(検定取得など)

ソフトウェア開発において、品質目標を定め、適切なソフトウェアテストを計画し実施することが出来る。

3. 注意点・要望

講義は会話形式で進めていきます。また、演習も毎回実施しますので、積極的な参加をお願いします。

4. 関連科目

-

週	テーマ	内容
1	IT業界／ソフトウェアテストについて	・世界のIT業界における日本の位置づけ、およびソフトウェア開発におけるQAエンジニアの役割、ソフトウェアテストの重要性を学ぶ。
2	テストの実行体験	・「ソフトウェアの品質管理」を学ぶ前にテスト実行を体験することで、現時点のバグ検出能力を把握し、且つどうすれば多くのバグを発見できたのかを考える。
3	品質とは何か	・良い品質／悪い品質を考える。 ・品質を確認するためのポイントを洗い出し、品質特性別に整理する。
4	品質を検証する工程とテストプロセス	・一連のテスト工程と各テスト工程内で実施するテストプロセスについて考える。 ・テスト設計前に実施すること、テスト実行前に実施することを洗い出す。
5	テスト設計プロセス	・テスト設計のインプットとアウトプットを整理する。 ・テスト設計のプロセス全体を理解する。
6	テスト設計…テスト対象範囲の設定	・テスト対象範囲の設定方法を学ぶ。 ・テスト対象に対して、必要十分なテスト範囲設定を実践してみる。
7	テスト設計…テスト観点の紐づけ	・テスト観点とは何か、どういう利点があるのかを学ぶ。 ・日常生活(ケーキ作り)を題材にテスト観点的な作成を体験してみる。
8	テスト設計…確認項目と期待値の設定	・確認項目と期待値の設定方法を学ぶ。 ・テスト観点的な紐づけ、確認項目と期待値の設定を実践してみる。
9	テスト設計…パターン表の作成#1	・因子／水準の洗い出しと漏れのない組み合わせ設定を実践してみる。 ・基本的なテスト技法(同値分割、境界値分析)を学ぶ。
10	テスト設計…パターン表の作成#2	・テスト技法のエッセンスを復習する。 ・単純な例題に対して、テストケース(パターン表)を作成する。
11	テスト設計…パターン表の作成#3	・前回のテストケースに実行条件を増やし、テストケースを追加してみる。 ・パターン数の効果的な削減方法について学ぶ。
12	仕様書インスペクション	・各々レビュー技法の概要、およびインスペクションの効果と技法を学ぶ。 ・実際に仕様書のインスペクションを実践してみる。
13	非機能テスト入門	・非機能の概要について学ぶ。 ・システム／ソフトウェアにおける非機能の考え方、テスト手法について学ぶ。
14	理解度確認試験	・本講座全体について復習する。 ・本講座で学んだことの理解度を確認する試験を受ける。
15	実社会におけるエンジニアの今後の展望	・今後の実社会におけるエンジニアとしての仕事の進め方や、エンジニアとしてどのような活躍の道があるのかを、具体例を交えながら考え学ぶ。
16	生成AIの利活用	・生成AIとは何かを基礎から理解する。 ・生成AIの活用方法や、適切に利用するための注意点やポイントを学ぶ。

備考

株式会社SHIFTの社員が業務経験に基づいた講義を行う。

科目	データベース構築演習	分類	専門科目、必修科目
担当	小林 信彦		
テキスト (出版社)	スッキリわかるSQL入門 第4版 (インプレス)		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	70%	0%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要		
リレーショナルデータベースについての演習を行い、データベース操作のためのSQLを学習する。		
2. 授業の目標(検定取得など)		
データベースを操作するために必要なSQLの基本について理解する。		
3. 注意点・要望		
課題や確認の小テストについては確実に提出すること。		
4. 関連科目		
-		
週	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、課題の提出、実習環境について確認する データベースの概略、接続と切断、SQLによるデータベース操作
2	SQL文の基礎	SQL文の基本文法、データ型とリテラル
3	SQL文の基礎	SQL文の基本文法、SELECT文、INSERT文、UPDATE文、DELETE文
4	情報の絞り込み(1)	WHERE句による絞り込み、条件式
5	情報の絞り込み(2)	主キーの必要性
6	検索結果の加工(1)	検索結果のソート、重複の除外
7	検索結果の加工(2)	集合演算
8	式と関数	式と演算子、各種関数
9	副問い合わせ	より複雑な検索操作
10	テーブルの作成と正規化(1)	テーブルの作成と正規化
11	テーブルの作成と正規化(2)	テーブルの作成と正規化
12	テーブルの作成と正規化(3)	テーブルの作成と正規化
13	複数テーブルの結合(1)	複数の表の結合操作
14	複数テーブルの結合(2)	複数の表の結合操作
15	後期試験期間	-

備考	-
----	---

科目	就職講座A	分類	教養科目、必修科目
担当	田邊 悦子・遠藤 幹雄		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	プリント教材		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	30%	40%	0%	30%	100%		

1. 授業の概要		
就職活動の流れを知り、自己分析や企業研究ができる力を身につける 内定をいただくためにやるべきこと、必要なことを考える		
2. 授業の目標(検定取得など)		
①自分を知る ②企業を知る ③準備をする ④不安を減らす		
3. 注意点・要望		
授業課題は、①履歴書 ②メール ③面接&エントリーシート対策ファイル ④報告書 等で評価 就職活動は教室で完結するものではないので、実際の活動やイベントへの参加も平常点として加味します		
4. 関連科目		
就職講座BⅠ、就職講座BⅡ		
週	テーマ	内容
1	就職活動の流れ	ともに働きたい人、新卒の就職活動、新卒採用の特権、就職活動スケジュール 授業の目的、就職指導室の利用、Teamsの利用、学科担当教員の紹介
2	企業が求める人物像	グループディスカッションのポイントと実践、専門学校生の武器 就職活動用フォルダ作成
3	内定までの流れ&エントリーの準備	内定までの流れ、就職活動支援サイト、自己分析 求人票検索システムの使い方、就職活動時の手続き
4	企業とのやりとり	主な提出書類、方法、注意事項、メールの基本、電話の基本
5	履歴書の作成	書き方のポイント、企業への提出方法、学校指定フォーマットでの履歴書作成
6	企業研究のポイント(1)	業種動向、企業の取引形態、職種とは、業界・企業研究の資料、企業名称
7	企業研究のポイント(2)	求人票、自己申告書・青少年雇用情報シート、自己申告書
8	企業研究のポイント(3)	Slerの分類、Slerの職種、IT系以外の職種
9	面接&エントリーシート対策	メラビアン法則、ハロー効果、自己PR・ガクチカ作成のポイント 対策シートの活用
10	面接試験(1)	挨拶の基本、身だしなみ、対策動画の視聴、Web面接に必要な準備
11	求職登録、就活支援サイトの活用 学校求人確認	就職先の希望、必要となる条件等のアンケート、2027卒向け求人票の確認 就活支援サイト「マイナビ」の使い方
12	面接試験(2)	面接試験の種類、面接の流れと評価のポイント、面接試験前、面接室、終了後
13	これまでの準備と成果物の整理	履歴書、面接&エントリーシート対策ファイル(ガクチカ、自己PR)
14	志望動機の作成	仕事のやりがい、企業研究の目的、志望動機のポイント 企業研究と併せて必要なこと
15	春休み期間中の活動に向けて	どうすればよい? できる?できてる? 学内合同企業説明会参加企業の紹介
16	後期試験期間	-

備考	IT関連の業務経験と就職指導経験のある職員(職業紹介責任者)が、その経験に基づいて、就職活動全般及び個別の事例について、講義と指導を行う
----	--

ITエンジニア科	2年
----------	----

【前期】

科目	Office演習応用 I	分類	専門科目、必修科目
担当	平山 慶子		
テキスト (出版社)	Access2019入門(プリント教材)		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	40%	25%	0%	35%	100%		

1. 授業の概要		
Word: 資料を体裁よく作成する機能や応用機能を学ぶ Access: 基本を学ぶ		
2. 授業の目標(検定取得など)		
Word: 見栄えのいい文書や資料の作成ができるようになる Access: 仕組みを理解し、基本的な操作ができるようになる		
3. 注意点・要望		
毎回授業で説明した内容に対する問題を出すので、遅刻をしないように注意		
4. 関連科目		
Office演習応用 II		
週	テーマ	内容
1	Word(1)	授業の年間予定、進め方 文字列とオブジェクト
2	Word(2)	段落書式
3	Word(3)	表を使った文書の作成
4	Word(4)	スクリーンショット
5	Word(5)	長文作成時機能
6	Word(6)	作品づくり
7	Word(7)	差し込み印刷
8	Word(8)	Excelとの連携
9	Access(1)	テーブル
10	Access(2)	クエリ
11	Access(3)	フォーム
12	Access(4)	レポート
13	Access(5)	自作データベースの作成(1)
14	Access(6)	自作データベースの作成(2)
15	Access(7)	自作データベースの作成(3)
16	前期試験期間	-

備考	-
----	---

科目	Office演習応用Ⅱ	分類	専門科目、必修科目
担当	平山 慶子		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	65%	0%	0%	35%	100%		

1. 授業の概要		
Excel VBAの基本を学ぶ		
2. 授業の目標(検定取得など)		
Excel VBAを利用し、Excelの一步進んだ使い方を身につける		
3. 注意点・要望		
毎回授業で説明した内容に対する問題を出すので、遅刻をしないように注意		
4. 関連科目		
Office演習応用Ⅰ		
週	テーマ	内容
1	Excel VBA(1)	セル操作
2	Excel VBA(2)	Withステートメント
3	Excel VBA(3)	Offsetプロパティ
4	Excel VBA(4)	復習
5	Excel VBA(5)	罫線の設定
6	Excel VBA(6)	シート・ブックの操作
7	Excel VBA(7)	変数
8	Excel VBA(8)	メッセージボックス
9	Excel VBA(9)	復習
10	Excel VBA(10)	Ifステートメント
11	Excel VBA(11)	Select Caseステートメント
12	Excel VBA(12)	For Nextステートメント
13	Excel VBA(13)	Do Loopステートメント
14	Excel VBA(14)	総合問題(1)
15	後期試験期間	-

備考	-
----	---

科目	就職講座B I	分類	教養科目、必修科目
担当	石神 和也・平野 智也		
テキスト (出版社)	これが本当のSPI3だ! 2027年度版【主要3方式(テストセンター・ペーパーテスト・WEBテスト)対応】(講談社) これが本当のCAB・GABだ! 2027年度版【Web-CAB・IMAGES対応】(講談社)		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

就活生としての心構えを持ち、就職活動がどういったものなのかを理解する。

2. 授業の目標(検定取得など)

前向きに就職活動が行えるようになる。

3. 注意点・要望

就職活動は資格試験よりも長丁場となるため、モチベーションが切れそうなときは相談すること。

4. 関連科目

就職講座A、就職講座B II

週	テーマ	内容
1	就職活動の心構え	就職活動の心構えについて学ぶ
2	自己分析(1)	自己分析の手法を学ぶ(1)
3	自己分析(2)	自己分析の手法を学ぶ(2)
4	企業の選び方(1)	企業の選び方について学ぶ(1)
5	企業の選び方(2)	企業の選び方について学ぶ(2)
6	エントリーシートの書き方(1)	エントリーシートの書き方を学ぶ(1)
7	エントリーシートの書き方(2)	エントリーシートの書き方を学ぶ(2)
8	エントリーシートの書き方(3)	エントリーシートの書き方を学ぶ(3)
9	エントリーシートの書き方(4)	エントリーシートの書き方を学ぶ(4)
10	エントリーシートの書き方(5)	エントリーシートの書き方を学ぶ(5)
11	インターンの心構え(1)	インターンの心構えについて学ぶ(1)
12	インターンの心構え(2)	インターンの心構えについて学ぶ(2)
13	インターンの心構え(3)	インターンの心構えについて学ぶ(3)
14	夏休みの過ごし方	就活生の夏休みの過ごし方について
15	前期試験期間	-

備考

-

科目	就職講座BⅡ	分類	教養科目、必修科目
担当	平野 智也		
テキスト (出版社)	これが本当のSPI3だ! 2027年度版【主要3方式(テストセンター・ペーパーテスト・WEBテスト)対応】(講談社) これが本当のCAB・GABだ! 2027年度版【Web-CAB・IMAGES対応】(講談社)		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	30%	0%	0%	30%	0%	40%	100%		

1. 授業の概要

採用選考で実施されることの多い、適正検査(SPI、CAB・GAB)の対策を行う。

2. 授業の目標(検定取得など)

SPIの非言語能力分野(主に計算問題)に焦点を当てたSPI対策およびCAB・GAB対策を行う。また、人と話す力の向上を目指す。

3. 注意点・要望

授業資料および教科書を使用し、反復学習を心がけること。また、言語分野においては自主的に学習しておくこと。
業界、企業研究の発表は「授業課題」としての評価とするので、必ず仕上げること。

4. 関連科目

就職講座A、就職講座BⅠ

週	テーマ	内容
1	SPI非言語能力問題対策(1)	仕事算、方程式
2	SPI非言語能力問題対策(2)	鶴亀算
3	SPI非言語能力問題対策(3)	損益算、速さ・時間・距離
4	SPI非言語能力問題対策(4)	小テスト、グループワーク(1)
5	SPI非言語能力問題対策(5)	順列・組み合わせ
6	SPI非言語能力問題対策(6)	確率
7	SPI非言語能力問題対策(7)	小テスト、グループワーク(2)
8	SPI非言語能力問題対策(8)	代金の精算、割合・比
9	SPI非言語能力問題対策(9)	集合
10	SPI非言語能力問題対策(10)	推論
11	SPI非言語能力問題対策(11)	小テスト、グループワーク(4)
12	CAB試験対策(1)	暗算、法則性
13	CAB試験対策(2)	命令表
14	CAB試験対策(3)	暗号
15	CAB試験対策(4)	まとめ
16	後期試験期間	効果測定

備考

-

科目	やってみなはれ演習応用 I	分類	教養科目、必修科目
担当	石神 和也・平野 智也		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。

2. 授業の目標(検定取得など)

リーダー・フォロワー、提案、許容、協調などの資質向上を図る。

3. 注意点・要望

「モメていない」=真剣ではない証拠、「失敗していない」=チャレンジしていない証拠、社会に出る前に真の協調性を学んでほしい。

4. 関連科目

ビジネス関連科目全て

週	テーマ	内容
1	やってみなはれ演習の意義	授業ガイダンス(評価方法、授業構成) 各行事に対する役割分担、責任分界点を意識した行動の指針を立てる
2	役割分担	体育祭に向けた事前準備 (それぞれの役割分担、目標設定)
3	国家試験後の目標設定	国家試験後の各自の半年間の目標、レポート作成
4	問題意識(1)	各グループに分かれ、日常を題材としての問題提起を行う(1)
5	問題意識(2)	各グループに分かれ、日常を題材としての問題提起を行う(2)
6	論点整理と解決案(1)	各グループが考える問題についての論点整理を行う(1) 論点が整理できた場合であれば解決案の検討を行う(1)
7	論点整理と解決案(2)	各グループが考える問題についての論点整理を行う(2) 論点が整理できた場合であれば解決案の検討を行う(2)
8	論点整理と解決案(3)	各グループが考える問題についての論点整理を行う(3) 論点が整理できた場合であれば解決案の検討を行う(3)
9	論理的思考(1)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(1)
10	論理的思考(2)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(2)
11	論理的思考(3)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(3)
12	論理的思考(4)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(4)
13	論理的思考(5)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(5)
14	論理的思考(6)	論理的に各グループが考える問題に対する解決策を発表する(6)
15	前期試験期間	-

備考

-

科目	やってみなはれ演習応用Ⅱ	分類	教養科目、必修科目
担当	石神 和也・平野 智也		
テキスト (出版社)	-		
参考資料	-		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計	単位数	2
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%		

1. 授業の概要

様々な学校行事を題材に社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。

2. 授業の目標(検定取得など)

リーダー・フォロワー、提案、許容、協調などの資質向上を図る。

3. 注意点・要望

「モメていない」=真剣ではない証拠、「失敗していない」=チャレンジしていない証拠、社会に出る前に真の協調性を学んでほしい。

4. 関連科目

ビジネス関連科目全て

週	テーマ	内容
1	後期演習内容ガイダンス	後期の行事、並びに就職活動を意識した活動計画の立案
2	能力の実践(1)	文化祭に向けた状況整理と今後のスケジュールすり合わせ
3	能力の実践(2)	各セッションに分かれて活動(1)
4	能力の実践(3)	各セッションに分かれて活動(2)
5	活動内容の評価(1)	活動内容の棚卸および評価(1)
6	能力の実践(4)	各セッションに分かれて活動(3)
7	能力の実践(5)	最終的な各セッションのすり合わせ
8	能力の実践(6)	各セッションに分かれて活動(4)
9	活動内容の評価(2)	活動内容の棚卸および評価(2)
10	社会人基礎力の向上(1)	自己啓発本の選定と購入
11	社会人基礎力の向上(2)	自己啓発本の読書(1)
12	社会人基礎力の向上(3)	自己啓発本の読書(2)
13	社会人基礎力の向上(4)	就職活動にむけてのアクション設定(1)
14	社会人基礎力の向上(5)	就職活動にむけてのアクション設定(2)
15	社会人基礎力の向上(6)	3年次における各自活動計画の取り決め
16	後期試験期間	-

備考

-

